

徳育	信頼、自信、自立の構築	
プロセス 1	自己制御と社会的発達	
不適切	1	<p>1.1 物事の線引き、きまり、子どもたちに期待することを保育者間で共有しておらず。対応が一貫していない。</p> <p>1.2 困ったり、悲しんだり、悩んだりしている子どもがいても、放置している場合がある。</p>
最低限	2	<p>2.1 子どもたちに期待することや物事の線引きについて、明確にされ、全保育者間で共有している。</p> <p>2.2 子ども、保護者や養育者、同僚を尊重し、かつ専門的に対応している。</p>
よい	3	<p>3.1 子どもたちにすべきことを丁寧に説明し、あらゆる危険を想定し、配慮している。</p> <p>3.2 子どもたちがきまりに従いたくない時や、気持ちが落ち込んでいる時に、共感や理解を示している。</p> <p>3.3 子ども一人ひとりの様子やニーズによく気づき、援助し、柔軟に対応している。</p> <p>3.4 子どもたちの不適切な態度について、「何をしてはいけないか」よりも「何をすべきか」を伝えている。</p>
とても よい	4	<p>4.1 子どもたちがきまりを守った時に、喜びの言葉を伝えている(例:「トラックと一緒に片づけられたね!」)。また/もしくは、子どもたちが、どのようにしてきまりを守ったかななどを保育者に伝えたいようにしている。</p> <p>4.2 子ども同士のいざこざが生じた時の対応の仕方を、全保育者間で共有している。子どもたちを問題解決に参加させ、一緒に解決策を考えるよう促すことも含む。</p>



徳育		信頼、自信、自立の構築	
プロセス 2	子どもの選択と自立した遊びの支援		
不適切	1	1.1	保育を計画する際、子どもたちの興味を考慮していない。
		1.2	子どもたち一人ひとりが、好きなように遊んだり活動したりすることを許していない。
最低限	2	2.1	保育者が子どもたちの遊びから「一歩下がって」おり、不必要に介入していない。子どもたちの遊びのテーマ、複雑さのレベル、目的、選択を受け入れている。
		2.2	本、おもちゃ、素材や教材等を子どもたちの手の届くところに配置している。子どもたちが保育者の意図とは異なる使い方をすることも歓迎している。必要に応じて配置等を変化させている。
		2.3	他の子どもたちとは異なる遊びや活動をしたい子どもがいる場合に、受け入れられている。
		2.4	子ども一人ひとりの興味に適度に対応できるよう、保育計画（日案、週案等）を柔軟に立てている。また、自由遊びを毎日行っている。
よい	3	3.1	子どもたちに誘われた場合に、保育者が遊びに加わっている。その際、遊びが子ども主導であり、遊びのレベルや子どもたちの作ったルールを尊重している。
		3.2	保育者が子どもたちの遊びを見たり、遊びに参加したりしている時に、喜びや楽しさを表現している。子どもたちに新しい遊びや活動をしたいと求められた時に、その環境を用意している。
		3.3	子どもたちの遊びを尊重している一方で、子どもたちが物事の線引きやきまりを守ることを期待している。
		3.4	子どもたちの提案に応じて、遊びを豊かにし、支えるために必要な素材や教材等を提供している。
とても よい	4	4.1	保育を計画する際、子どもたちにも参加させている（例：保護者に意見を聞く、遊ぶ空間に配置するモノを子どもたちが選んだり作ったりすることを支える、どこかを訪問したり誰かに訪問してもらったりするといったことを一緒に決める）。
		4.2	保育者が、子どもたちが大人に援助されて活動する様子を観察し、そこで生まれる考えや概念等が自由遊びへつながっていくかを丁寧に見ている。

徳育		信頼、自信、自立の構築	
プロセス 3	小グループ 個別のかかわり、 保育者の位置取り		
不適切	1	1.1	保育者が、グループやグループ分けの重要性について、ほとんど理解していない。
		1.2	グループの遊びや活動と個人の遊びや活動との、空間や時間の明確な区切りがない。
最低限	2	2.1	子どもたちが一人で、二人組で、もしくは小グループで遊べるための十分な選択肢を、環境の中に用意している。
		2.2	それぞれの遊びや活動のエリアが混雑しすぎないように配慮している(例: そのエリアで遊べる人数の上限を、絵や数字にして貼ることで、幼児の理解を支える)。
よい	3	3.1	子どもたちが遊びや活動のエリア空間の広さや素材・教材等を選ぶことができる。
		3.2	保育者はすべてのエリアを見渡せると同時に、小グループや個人ともかかわることのできる場所に位置取りしている。
		3.3	人気のあるエリアには、十分な空間や素材・教材等があるようにし、人気のないエリアは構成し直し、そこでの子ども同士のかわりを支えている。
とても よい	4	4.1	保育計画が子どもたちのニーズに対して柔軟に立てられている。子どもたちの突然わいた興味に応じるために、計画を変更したり、子どもたちが興味を持たなかった計画は取りやめたりしている。
		4.2	すべての環境を通して子どもたちの学びの足場かけ(scaffolding)をすることに十分な時間をかけている。また、子どもたちの学びを足場かけする際、自分がかかわっている子どもたちの姿に集中している。その一方で、他の子どもたちに対しても気持ちを向けていて、応答的である。
		4.3	保育者が、子どもたちが保育者のしていることを気軽に見に来ることができるような、特別に考えられた活動をしている。これは、子どもと保育者が一対一や小グループでかわったり、話し合ったりできるようにするものである。



徳育		社会的、情緒的な安定・安心	
プロセス 4		社会情緒的な安定・安心	
不適切	1	1.1	子どもたちが表出した感情を、軽く扱う、無視する、退けるもしくはあざ笑う等している。
		1.2	子どもたちに対して、温かく、受容的な身ぶりをしていない。
		1.3	子どもと保育者、子ども同士のやりとりを促すような保育環境や活動を用意していない。
最低限	2	2.1	子どもたちが表出する感情に共感し、自らの感情にうまく対応できるよう援助している。
		2.2	子どもたちの遊びが続くよう必要に応じておもちゃや小道具、素材や教材等をさらに提供しながら、子どもたち同士が傍で遊ぶことを促している。子どもたちが一緒に遊ぶようになったら、子ども同士が助け合ったり、シェアしたりすることを支えている。
		2.3	観察時間中のいずれかの時点で、ほとんどの子どもに対して、ポジティブで個別的なまなざしを向けている。
		2.4	保育者が温かく、友好的で、落ち着いている。必要に応じて適切に、穏やかな身ぶりをしたり、身体的に近づいたり、子どもに手を触れたり抱きしめたりしている。
よい	3	3.1	子どもたちが自分の感情やニーズを表現したり、言葉にしたりしやすいようにしている。
		3.2	子どもと保育者、子どもたち同士のやりとりを支え、その中で子どもたちの学びを意図したねらいが、保育計画に記されている。適切な場面で協働的な遊びや活動を促すこと等を含む。
		3.3	子どもたちがうまくシェアしたり、一緒に遊んだりできなかった場合に、保育者の援助を求めやすいようにしている。
		3.4	子どもたちのニーズ、感情、機嫌に対して応答的である。子どもたちがポジティブな感情を持てるように支えながら、子どもたちと一緒に遊び、生き生きとした姿を見せ、楽しんでいる。
とてもよい	4	4.1	子どもたちが（多くは自身の経験に基づいて）感情やニーズについて話せる機会を提供している。お話や小道具を使って、子どもたちの言葉を引き出すこともある（例：「クマさん(ぬいぐるみ)が、家族がいなくて寂しいって言っているの。寂しくなくなるように、どんなことをしてあげられるかな?」）。
		4.2	子どもたちが他の子どもの非言語的な表現から何がわかるかを示したり話したりするように求めている。本、写真、DVD などを使うこともある。
		4.3	子ども同士がコミュニケーションをとり、他の子どもの感情に気付き、応答すること を支えている。他の子どもが自分のニーズや要求をうまく表現できない場合もある、ということと一緒に考えることも含む。
		4.4	子どもたちが自分の感情を表出しやすいように、必要に応じて、保育環境やルーティン的な活動を変化させている。

知育	言葉・コミュニケーションを支え、広げる保育方法		
プロセス 1	子ども同士の会話を支えること		
不適切	1	1.1	子どもたちが必要なこと以外は話せないようにしている
		1.2	保育者が主として、子どもたちの行動を統制し、ルーティンをこなすために話し欠けている。
		1.3	室内で生じている音が、話声が聞こえないくらいに大きい（例：室内で流れている音楽や歌の音が大きすぎる）
最低限	2	2.1	子どもたちがいつも好きな時に話すことができる
		2.2	保育者が、グループにいるほとんどの子どもとの会話に参加するようにしている。
よい	3	3.1	子どもたちが活動中や一日を通して互いに話しかけやすいよう、保育者が見本となり、また、子どもたちを援助している。
		3.2	保育者がガイドする活動の際、子どもたちの会話を支えるような素材や教材等を用意している。
		3.3	子ども一人ひとりが話したいと思ったときに話せる機会を保証している。そのために、保育者が子ども一人ひとりと、あるいは小グループとかかわっている。
		3.4	子どもたちがほとんど話さない、もしくは話すことができない場合や、日本語が母国語で無い場合に、言葉でのやりとり以外のコミュニケーション方法を用いている。（例：写真、絵、記号、ぬいぐるみ、身振り等）
とてもよい	4	4.1	子どもたちが他者との関りや会話、遊び等を選び、主導しやすいようにしている。
		4.2	子どもたちがやり取りの中で積極的に話し手となり、より長く複雑な応答をしやすいように、保育者が子どもたちに十分な時間を与える、コメントをする、簡単な質問をする等している。
		4.3	子どもたちが他者とかがわろうとしていない時に、保育者が子ども達の傍らで遊び、子どもたちの姿から手がかりを得ながら子ども主導の遊びの流れにのり、コミュニケーションに誘われる機会を待っている。
		4.4	子ども一人ひとりや小グループの動き等の流れに沿ってコメントすることで、子ども同士の遊びやかかわりが続くように支えている。

知育	言葉・コミュニケーションを支え、広げる保育方法	
プロセス 2	保育者が子どもの声を聴くこと、子どもが他者の言葉を聞くよう支えること	
不適切	1	1.1 保育者がコミュニケーションを息苦しくしている（例：子どもたちに対して、何でも決めつける、恥ずかしい思いをさせる、無視する、過小評価する）。
		1.2 子どもから助けを求められても無視している。助けの求め方が直接的である場合も間接的である場合も含む。（例：泣き、ひきこもり、無気力）。
最低限	2	2.1 子どもたちの言葉を使ったメッセージを理解している。
		2.2 子どもたちの言語的、非言語的サインに応答している。
		2.3 保育者の身ぶりが子どもたちとのコミュニケーションをとりたいことを示している（例：両手を開く、前のめりになる、笑顔、子どもの言葉を待ち、耳を傾ける）。
よい	3	3.1 子どもたちと会話するときに、子どもたちと目線の高さに合わせている。
		3.2 保育者が、子どもたちの言葉を理解できたかを確認するため、子どもの言葉を言い換えたり、繰り返したりしている。
		3.3 <b>子どもの言っていることの意味や言葉そのものが不明瞭な場合、子どもに何度も繰り返すことを求めるのではなく、「知識・経験に基づいた推測」をしている。推測した内容が間違いだった場合、子どものせいにせず、保育者の責任としている。</b>
とても よい	4	4.1 子どもたちがじっくり考えて応答できるよう、長い沈黙を受け入れている。一人ひとりに必要な沈黙の長さが異なるということを認め、子どもたちにも示している。
		4.2 子どもが自分の考えを他の子どもに伝えるように指示することで、子ども同士が話し、相手の言葉を聞くことを促している。もしくは、子どもが話したり示したりしようとしている時に、ほかの子どもたちに聞きに来よう誘っている。



知育	言葉・コミュニケーションを支え、広げる保育方法		
プロセス 3	子どもの言葉の使用を保育者が支えること		
不適切	1	1.1	子どもたちに赤ちゃん扱いする仕方（子どもたちの話し方を真似てばかりにするような言い方）で話しかけている。
		1.2	保育者が乏しい語彙、あるいは不適切な言葉を多く使っている。
		1.3	子どもが理解できない言葉を多く使っている。
最低限	2	2.1	保育者が正しい文法と発話を用いて、シンプルで正しい言葉を使っている。
		2.2	必要と状況に応じて、適切な声色で話している。
		2.3	子どもたちの年齢や能力に応じて、適切な言葉を用いている。
よい	3	3.1	保育者が正しく適切な言い方を、配慮して選んでいる。
		3.2	子どもたちの興味やわくわくする気持ちを支え、情緒を表出し、子どもたちを落ち着かせ、理解を助けるようさまざまな声色を使用している。
		3.3	子どもたちが遊んでいるときに、遊びの様子を適宜言葉で表現することで、語彙の手本を示したり、子どもたち自身の思考のプロセスをわかりやすく提示したりしている。
とてもよい	4	4.1	子どもが保育者とのやりとりの中で間違えた言葉や言い回し、文法を、保育者が正しく言うことで、子ども一人ひとりの言葉の発達を支えている。子どもの間違いを指摘するのではなく、正しい言葉、文等の手本を示す。
		4.2	子ども一人ひとりの現状より少し上のレベルで言葉の足場かけをし、言葉の手本を示している。



知育	言葉・コミュニケーションを支え、広げる保育方法	
プロセス 4	感受性豊かな応答	
不適切	1	<p>1.1 子どもたちと最低限関わるのみで、それ以上関わろうとしていない（例：ほとんど会話をしない、子どもたちが何をしているかに興味を示さない）。</p> <p>1.2 保育者同士が話すばかりで、目の前にいる子どもたちを無視している。</p> <p>1.3 子どもたちと個別にかかわることがほとんどなく、つねに子どもたちのグループ全体と会話している。</p> <p>1.4 子どもたちが明らかに苦痛な状況に置き去りにされている。</p>
最低限	2	<p>2.1 保育者が小グループの子どもたちに焦点をあてており、そのグループの中で子どもたちに個別に対応している。</p> <p>2.2 保育者が興味深そうに、子どもたちの言葉に耳を傾け、子どもたちからの質問やコメントに対応している。</p> <p>2.3 ほめ言葉が使われているが、大抵の場合、子どもたちのグループ全体に対して使われている。</p>
よい	3	<p>3.1 ほとんどの子どもが、観察時間中に最低一回は、一定の時間、個別のまなざしを向けられている。</p> <p>3.2 子どもが取り組んでいることで苦勞していると感じた時に、保育者が快く手を差し伸べている。</p> <p>3.3 子ども一人ひとりに対して、適切な時に、すぐにほめ言葉や励ましの言葉をかけている。</p>
とてもよい	4	<p>4.1 ほとんどの子どもに、観察時間中に二回以上、一対一のかかわりの中でまなざしを向けている。</p> <p>4.2 子どもたちからのコメントや要求に対して、すぐに応答したり、検討したりしている。必要に応じて他の保育者が加わり、子どもたちがただ待っているだけ、うろうろしているだけという状況にならないようにしている。</p> <p>4.3 保育者がある特定の子どもに焦点をあてたいと思った場合でも、他の子どもたちが排除されたと感じないようにしている。</p>



Luce (アルタナーサリー・保育のプロセス自己評価チェックシート)

知育	学びと批判的思考を支える		
プロセス 5	好奇心と問題解決の支援		
不適切	1	1.1	保育室内の学びのための環境が、つねに同じように配置され、同じ素材や教材、活動で構成されている。
		1.2	子どもたち同士のいざこざが始まらない限り、つねに子どもたちだけで遊ばせており、保育者はみているだけである。
最低限	2	2.1	それぞれの活動時間の中で、使うことのできる素材や教材等が多様にある。保育者が、子どもたちが取り組みたくなるような遊びや活動をわかっており、そういうものを選んでている。
		2.2	ひとつの活動時間で最低一回は、保育者が子どもたちを支える活動を行っている。
		2.3	保育者が子どもたちに、問題解決を手伝ってくれるよう頼んでいる(例:遊びや活動のエリアを作る時、子どもたちが素材や教材等を見つけ、配置するのを手伝っている)。
よい	3	3.1	新しい素材や教材、活動、もしくは挑戦を定期的に用意している。それらは、その時の保育のテーマ、年間における時期、子どもたちの興味や思考の枠組みに関連したものである。
		3.2	保育施設のすべての空間で、保育者がひとつのエリアから他のエリアへ適切に移動しながら、子どもたちの学びについて手本を示し、支え、広げている。
		3.3	保育者が、子どもたちに問題解決をさせ、支えている(例: 日常のなにげない問題を取り上げる、問題が生じた時に、解決するために子どもたちを誘う)。
とてもよい	4	4.1	保育計画に、定期的に訪問者があることが記されている(例: 警察官、地元の店員、タクシー運転手、なじみのあるお話のキャラクターに扮した保育者等)。
		4.2	子どもたちとともに、子どもたちの知識や経験を広げるような興味深い場所を訪れている。
		4.3	子どもたちが探せるように、想定外のモノを保育室内に隠したり、宝箱を使ったりして、子どもたちの好奇心を支えている。
		4.4	子どもたちの思考のプロセスと問題解決のプロセスを、保育者が言語化し声に出すことで手本を示し、子どもたちのメタ認知を支援している。また、子どもたちが計画し、実行し、活動の評価を行うのを援助している。



知育	学びと批判的思考を支える		
プロセス 6	お話・本・歌・言葉遊びを通した 「ともに考え、深めつづけること」		
不適切	1	1.1	お話、本、歌、言葉遊びなどの場面で、子どもとの個別のかかわりをほとんどしていない。
		1.2	お話、本、歌、言葉遊びなどの場面が、保育者のかかわりがグループ全体へのものに限られている。
最低限	2	2.1	子どもたちからお話、本、歌、言葉遊びなどを求められた時に、子どもたちがお話を思い出すよう手伝ったり、絵本を配置したり読んだり、一緒に歌ったり、言葉遊びをしたりしている。
		2.2	子どもたちを（個別に、もしくは小グループごとに）、一緒に歌ったり、言葉遊びをしたり、子どもがお話を語ったり、本を読んだりすることに誘っている。
		2.3	歌、言葉遊び、お話、本を選ぶ時に子どもたちに参加させ、何を選んだか等を尋ねている。
		2.4	保育者が、子どもたちの好きな本、お話、歌、言葉遊びを把握している。
よい	3	3.1	子どもたちに、本を持って「読む（見る）」ことや、なじみ深いお話を思い出して語ること（自分の作ったお話も含む）、歌うこと、言葉遊びに参加したくなるよう工夫している。
		3.2	小道具やぬいぐるみ、子どもたち自身を用いて、お話を語ることや歌、言葉遊びに参加することを支えている。
		3.3	子どもたちは、お話を思い出して語るため、あるいは自由遊びで使うために、小道具やぬいぐるみを自由に手に取ることができる。
		3.4	保育者が、子どもたちと歌や言葉遊び以外の活動をしている時に、子どもたちと遊んだりかかわったりしながら、歌ったり言葉遊びしたりしている。
とてもよい	4	4.1	子どもたちの概念理解を支えるため、事実について扱っている本（訳者注:図鑑や科学絵本など）を使用している。
		4.2	保育者が子どもたちを、お話や歌等の遊びをしたくなるよう引き込んでいる。保育者が、子どもたちがなじみのある言葉や行為等を用いて表現することを支えたり、それについて考えを伝えたり、お話や歌等について評価を伝えたり、いくつかのシンプルな開かれた質問をしたりしている（訳者注:開かれた質問とは、答えが「はい/いいえ」のように限定されていない質問）。
		4.3	子どもたちが、お話や本、歌、言葉遊びと、それ以前の自らの経験とをつなげられるよう促している。



知育	学びと批判的思考を支える		
プロセス 7	調べること 探究を通した「ともに考え、深めつづけること」		
不適切	1	1.1	子どもたちが探究したり、調べたりすることをほとんど支援していない。
		1.2	科学や算数、問題解決、あるいは概念について、保育者がほとんど理解を示していない。
最低限	2	2.1	子どもたちの探究を促すための活動を準備したり、目的の制限されていない素材や教材等を配置したりしている。
		2.2	子どもたちが探究したり調べたりすることについて、子どもたちと一緒に話し合っている。
		2.3	子どもたちが、観察したとそれ以前の経験やこれからのフォローアップの活動とをつながられるよう、支援している。そのために、(本やパソコンにある)絵や写真、その他の素材や教材等を利用している。
よい	3	3.1	子どもたちが想像力や創造性を使って、探究したり実験したりするように支援している。子どもたちが素材や教材科学的な活動に用いる道具 (equipment)を持って、ある場所から別の場所へと移動することを促している。
		3.2	探究、わくわくすること、驚いたり不思議に思ったりすることの見本を示し、子どもたち自身も探究できるようにしている。
		3.3	子どもたちの行為や興味について、それが生じた時に指し示し、共有し、説明している。シンプルな科学的概念、説明的概念を紹介している。
		3.4	科学や算数にかかわる活動が、それ以前の活動や探究の上に積み重なるよう、体系化されている。
とてもよい	4	4.1	子どもたちに、科学的な方法あるいは問題解決のための方法の見本を示している。子どもたちと会話し、行動する中で、子どもたち自身の丁寧な観察、予想や予測、評価を支えている。
		4.2	子どもたちの経験から出てくる身近な言葉に加えて、それらの経験につながる、科学的な言葉(例えば、「溶ける」)を使っている。
		4.3	保護者が子どもたちの科学的活動、問題解決の活動、探究に参加するよう、保護者と会話し、促している。

知育	学びと批判的思考を支える		
プロセス 8	概念発達と高次の思考の支援		
不適切	1	1.1	子どもたちの思考や概念発達を支えるような遊びや活動を計画していない。
最低限	2	2.1	子どもたちの批判的思考(例えば、順番にすること、比較すること、対照して差異を捉えること、問題解決すること)を支えるような、適当な素材や教材等を用意し、保育者がガイドする遊びや活動を展開している。
		2.2	子どもたちから助けを求められた時に、子どもたち自身で問いに対する答えを見つけられるよう支援している。
よい	3	3.1	子どもたちが自分の行っていることについて丁寧に考え、活動を広げていけるよう保育者が見本を示す、シンプルな開かれた質問や閉じられた質問をする使える素材や教材等を追加するといった方法で支援している。
		3.2	子どもたちの思考や問題解決を支え広げる活動や問いにつながるような、子どもたちの学びを意図する内容を保育計画に記している。
とても よい	4	4.1	子どもたちが自らの学びの経験を計画できるよう支援している。例えば、遊びや活動を進めていけるように、素材や教材、その他の資源を集める、必要なもののリストを作る、写真を使う、考えを整理する、マインドマップを作るといったことを手伝う等。
		4.2	保育者が質問をすることで、子どもたちが自分の活動や遊びについて評価することを促している。
		4.3	保育計画の内容が展開していき、子どもたちがそれ以前に探究した概念を展開させる機会を提供する内容になっている(例: 思考の枠組みや興味を考慮している)。
		4.4	子どもたちが、探究している概念と実際の生活やそれ以前の経験とがどのようにつながっているかを知ることができるよう支えている(例: どこかを訪問する、写真を使う、保護者と話し合う等)。

